

平成 22 年度第 5 回運営推進会議議事録

日時	平成 22 年 11 月 10 日
場所	喜須来地区神越自治公民館 和室
参加者名	亀井（老人会長）、片岡（地域包括センター）、福島（民生委員）、地域の老人会、サロンの方々、岡村（ボランティアグループホット）、神野、山田（さわやか相談員）岡本（施設長）、浅野（管理者）、鎌田（スタッフ）
<p style="text-align: center;">「認知症についてみんなで学ぼう」</p> <p>第 27 回運営推進会議は、岡本施設長が講師となり、地区の老人会、サロンの方々を対象とした学習会を開催しました。20 名以上の参加があり、様々な事例を通じて、認知症についての理解を深めて頂くと共に、地域の一員としてのグループホームに、近づく事が出来たのではないかと思います。</p> <p>・ 認知症の方への対応 認知症のあらわれ方について、何例か紹介 ご家族同士の協力の無かった方 ご家族が、介護を楽しまれていた方 ご家族が、認知症である事を隠そうとした方 ご家族により、外に出る事ができなかった方 ご家族の思いに寄り添う。お世話を頑張っていた。認めてほしかった。 認知症の周辺症状への対応を、家族が理解する。 物盗られ症状のある方の居室、殺風景な居室が多い。自宅では、沢山の物に囲まれて生活していた。物が無い。物を盗られたと思う。 鼻をかんだ紙を置かれており、回収すると「大切な物が無くなった。」と思われる。ご本人にとって、何が大切な物か？自分の基準で考えない。 便秘症、ご本人は、腹が張っているが何が原因か判らない。落ち着きがなくなる。 脱水、のどの渇きが判らない。のどの渇きを感じなくなる。 昔のままの付き合いが大切。</p> <p>・ 認知症は、だれもがなる可能性があります。 認知症を理解してもらうためには、関係者だけではなく、地域の方々の理解が必要となります。地域の方々の理解を広げ、認知症の方が隔離されることなく地域で住民とより良く暮らす、環境を整備する必要があります。</p>	